

金沢市立鳴和中学校

ICT教育モデル校

1 研究の重点と具体的な取組

本校の研究テーマは「自ら学び、考え、行動する生徒 ～思考力・判断力・表現力を育む授業展開を目指す～」である。この研究テーマを、次の2つを柱として研究を進めた。

1) 基礎的・基本的な知識の定着

市の平均と比べ正答率が高い。しかし、SDGsでも謳われている「誰一人取り残さない」をキーワードに、誰一人取り残さない教育の実現を目指し、基礎的・基本的な知識を確実に身につけられる工夫を各教科で設定する。



2) 単元を貫く「大きめ課題」の設定

単元を通してどんな力をつけたいのか、という点に重点を置き、研究を進めていく。単元の終わりに時間をとって生徒がじっくり書く課題を「大きめ課題」と名づけ、どのような課題を設定するべきかを各教科で研究する。この2点について、ICTを活用することでより意欲的・効果的に授業を進めていくこととした。

2 取組の検証

1) 基礎的・基本的な知識の定着

<ドリルパーク>

単元の終わりにドリルパークで文法の簡単なテストを行い、理解できていない生徒のフォローをする間、他の生徒は自主的に問題を解いていくという時間も持つことができた。(英語科)

2) 単元を貫く「大きめ課題」の設定

<動画撮影>

各々の発表をiPadで撮影し、撮影した映像で振り返りを行うことで、生徒同士の対話は活発になり、話し合いにも深まりができた。また、ALTとの対話テストを録画し、テストの後にどんな会話をしていたか聞き直すことで、振り返りが具体的になり次回への意欲につながった。マット運動では、手本の動画で成功イメージを持つことや、自分の動きと比較し、何が違うのか、どこに注目すればよいかを見つけることができた。また、スローモーションで撮影をすることで、さらに技の完成度を高めるにはどうしたらよいか視覚的に確認させることができた。ダンスでは、踊りのそろい具合や立ち位置の確認に役立った。

<発言の見える化>

ミライシードの「ムーブノート」では、提出BOXに提出されたカードが一覧表示され、教員および生徒全員が見て、自分の考えを他の生徒の考えとの比較が可能である。また考えを持ってない生徒は、他の生徒の考えを参考にすることができる。生徒が考えを説明する際は、画面に表示された図などを見ながら、全員の手元に発表資料をおいた状態で説明を聞いた。

<プレゼンテーション>

インターネットで写真を検索し、オクリンクで簡単なプレゼンテーションスライドを作成して発表に使用した。写真があることで、聞き手の反応をみながらスピードを変えたり、自信を持って堂々と表現でき、伝えようとする意欲の高まりがみえた。

3 成果と課題

基礎基本の徹底では、自分の苦手な教科・単元を小学校から学び直しができる。前時の復習に使用した場合でもそれほど時間がかからないので、1人1台の端末を持つことができる来年度からは、さらに授業内で積極的に活用していきたい。

「大きめ課題」の場面では動画撮影、オクリンク、ムーブノートを活用した。生徒の授業に参加しようとする意欲が高まり、ペアやグループでの話し合いがより具体的になり、よりよい発表とはどんなものかをはっきりイメージできる生徒が増えた。

一方、サーバへの接続が安定しないという問題が一番大きく、接続がうまくいかないと学びが止まってしまう、生徒の意欲の低下を心配した。さらに、接続できない場合を想定して、紙ベースのワークシートも準備しておく手間が大きい。



次に、使用した場面が効果的かどうかについて今後も検証する必要がある。

多様な意見を出し合う場面で、ムーブノートを使った例では、紙ベースのワークシートに書く方が、たくさん意見が出たという授業もあった。

これらから、Chromebookを使うのか、紙ベースのワークシートやノートに書くのかについて、各教科部会で慎重に検討し、決定することが重要だということが確認できた。